

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
地理歴史	世界史A	2	1	全科	必修	世界史A 東京書籍

1. 学習の到達目標

国際化が進む現代に生きる私たちにとって、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養うことが大切だと考えられます。そのために、世界史Aでは、近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けることが目標です。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の規準	歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立って自己の属する国や地域の特色を理解するとともに、他国や他地域との協調関係を築いていく態度を持つようとする。	歴史的事象から課題を見出し、世界の構造や成り立ちを歴史的な視野から多角的・多角的に考察し、現代の諸課題を歴史的な観点から追究し、公正に判断する。	年表や歴史地図、映像など、歴史に関する様々な史料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追求し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。	諸文明の特質と世界の一体化の過程を地理的条件とわが国の歴史の展開との関係に留意しながら理解し、その知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

単なる暗記科目としてとらえるのではなく、私たちの祖先がどのように考え、そしてどのように生きたのか、イメージすることを通して歴史を感じて欲しいと思います。

	目 標	近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	
月	大 項 目	中 項 目	時数
4	序説 古代文明の成立 【第1部】近・現代世界史の背景 第1章 ユーラシアの諸地域世界	1. 東アジア世界 2. 東南アジア世界 3. 南アジア世界	6
5		4. 西アジア世界 5. ヨーロッパ世界 6. 南北アメリカ、アフリカ 7. ユーラシアの交流圏	7
6	【第2部】成熟するアジアと世界へむかうヨーロッパ 第2章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ	1. 中華帝国の繁栄と東アジア 2. 15～17世紀の東南アジア 3. 西アジアと南アジア 4. 16世紀のヨーロッパ 5. 主権国家体制と世界商業	8
7	第3章 大西洋世界の変容とその波及	1. ヨーロッパとアメリカの諸革命 2. 産業革命と世界市場の拡大 3. ヨーロッパの動乱の波及	6
9	第4章 産業社会の拡大と成熟	1. ウィーン体制とその崩壊 2. 国民国家への道	6
10	第5章 アジア諸国の変貌と日本	1. 東アジアの変容 2. 東南アジアの変容 3. 南アジアの変容 4. 西アジア、アフリカの変容	6
11	【第3部】現代の世界と日本 第6章 帝国と民族の時代	1. 急変する人類社会 2. 植民地の拡大と深まる国家の対立 3. アジア、アフリカの抵抗運動	9
12	第7章 二つの世界大戦の時代	1. 第一次世界大戦 2. 戦後秩序の形成 3. 世界恐慌とファシズム 4. 第二次世界大戦	8
1	第8章 冷戦と民族独立の時代	1. 戦後世界の形成 2. アジア、アフリカの民族運動 3. 冷戦体制の動揺 4. 冷戦の終結	8
2	第9章 グローバル化のなかの危機	1. グローバル化とアメリカ合衆国 2. 地域統合の模索 3. 動揺する中東と世界の地域紛争 4. アジアの変容と多様化	4
3	終章 21世紀に生きる	1. 歴史をみる眼 2. 現在の諸問題 3. 新しい動き 4. あらたな世界史像を求めて	2